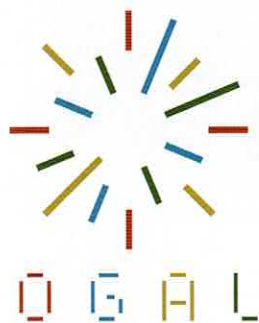


明るい未来の扉を開こう！美しい自然とやさしさに包まれて、街並み・人が育まれるまち



まち人OGAL (オガール)

オガールプロジェクト(岩手県紫波町)は、
都市と農村の新しい結びつきを創造します。
「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」……
新しく豊かで魅力的な持続的に発展する街を目指します。



オガール Start!

オガールって何？(オガールプロジェクト概要)

紫波町は、JR紫波中央駅前の町有地10.7haを中心とした都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い、平成21年3月に議会の議決を経て紫波町公民連携基本計画を策定しました。この基本計画に基づき、平成21年度から始まった紫波中央駅前都市整備事業が「オガールプロジェクト」です。

〈事業概要〉

- 計画面積 21.2ha(町有地10.7haを含む) ○事業期間(第1期・交付金対象) H21.4~H26.3
- 概算事業費(公共分) 19億4千5百万円 ○町有地10.7haのうち民間活用想定面積 約4.5ha

オガールの名前の由来

紫波中央駅前(紫波の未来を創造する出発駅とする決意)とフランス語で「駅」を意味する「Gare」(ガール)+紫波の方言で【成長】を意味する【おがる】=このエリアを出発点として、紫波が持続的に成長していく願いを込めました。

岩手県紫波町 DATA

盛岡市の南部、岩手県の中部に位置する。

人口……………33,314人(H29.3)

面積……………239.03km²

主な産業……………もち米の産地

フルーツの里(りんご、

ぶどう、洋ナシ、など)

南部杜氏発祥の地

紫波もちもち牛、しわ黒豚



盛岡市

紫波町

整備方針

統一感のある景観で 住みよいまちに
官と民の敷地が シームレスにつながる
歩行環境の充実
回遊性、快適性を 重視した道路網
多様な用途に 活用できる公共空間
駐車場をバランスよく配置
地域材を活用し、地元事業者の 施工により経済活動を支援
公共投資を誘発剤として 民間投資を促進
雇用機会を創出し快適な環境を 提供する民間投資を推奨
設計・コンペで町の特徴を 生かした創造的な設計を採用

これらの考え方にに基づき、紫波中央駅前町有地を民間のアイデアを用いて整備することによって、町の中心部が賑わう仕組み、そしてそこから町全体に経済活動が波及する仕組みをつくり、持続的に発展する町を目指します。

デザインの考え方

オガールプロジェクトでは、デザインガイドラインを策定し、美しい街並みを積極的にコントロールし、保全していきます。また、紫波町が目指す循環型のまちづくり理念を具現化し、より多くの木質系材料の活用を期待しています。



(イメージ図)

オガール・イメージ図

役場庁舎 平成27年5月開庁

PFI手法(BTO方式)で整備された新庁舎は、4カ所に分散していた庁舎機能を1カ所にまとめ、防災拠点としての機能を備えます。町民に親しまれ、機能性・利便性の高い庁舎を目指します。



オガール

景観が「オガール」紫波型協定の

オガール広場

(東広場、西広場、大通公園)

紫波町の象徴である田園風景と都市空間をつなぐ、オガールエリアのシンボリックな場所です。「担い手づくりワークショップ」で出された市民の意見が、デザインコンセプトに生かされました。広場両側の建物1階部分に設けられたアーケードによって、建物と広場が一体となった空間が創出され、建物内の活動が広場へ、広場の活動が建物内へと行き交います。夏はバーベキュー、冬は雪遊びと四季を通じて憩い、集う人々の姿が見られます。



エネルギーステーション

(中央) 平成26年7月供給開始

木質バイオマスボイラーを主な熱源として地域内熱供給を行う施設。町産木質チップを燃料に、役場庁舎、オガールベース、オガールタウンへの冷暖房・給湯用の熱を供給します。



オガール保育園(西側)

平成29年4月開園

民設民営により子育て環境の充実を図り、「共に作り出し、共に助け合い、共に栄える子ども」を育てます。



オガールセンター(東側)

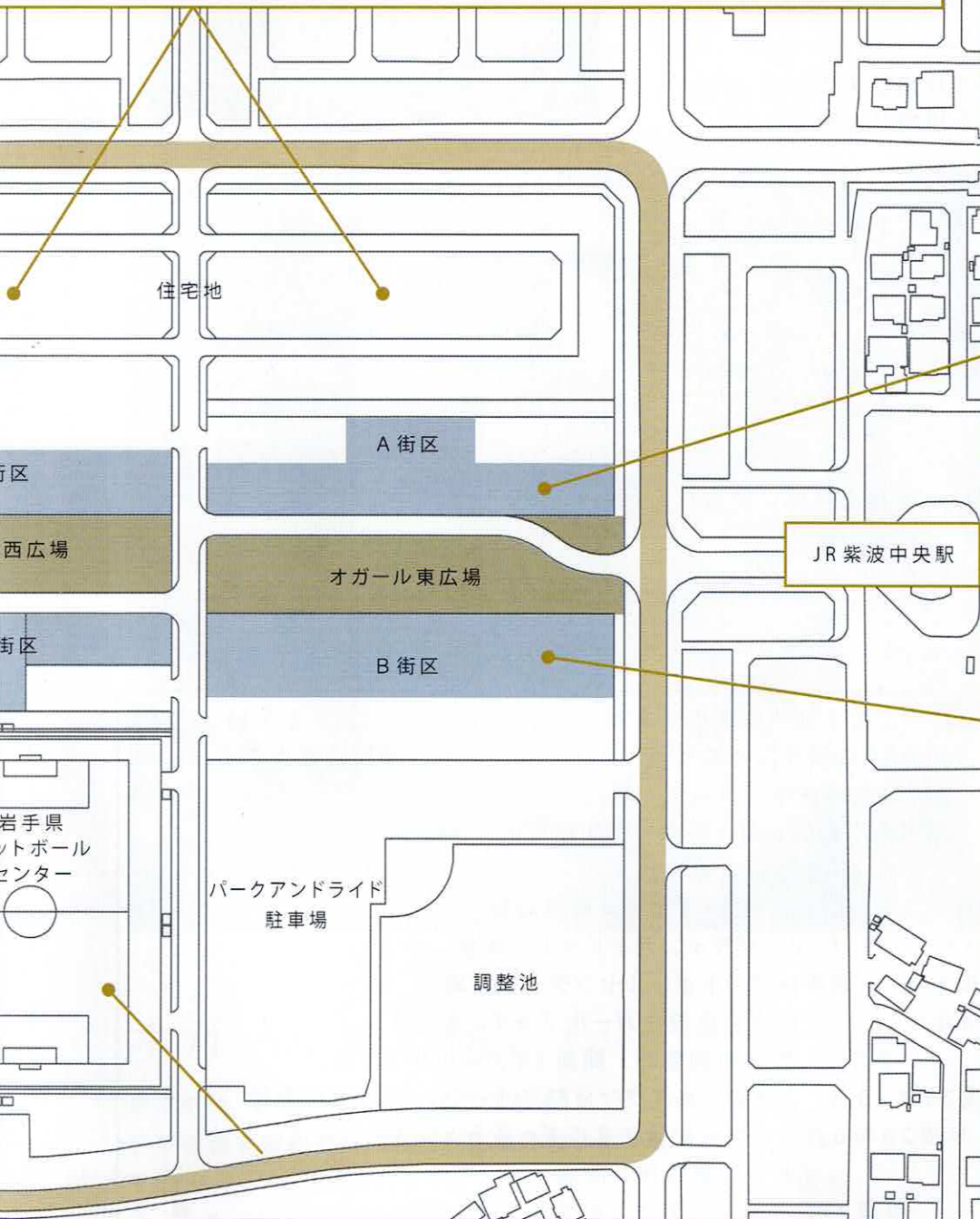
平成28年12月オープン

教育サポート施設、小児科、病時保育、アウトドアショップやスポーツジム、ベーカリーや美容室が入居し、子育て環境の充実を図りながら周辺の施設と連携し、ライフスタイルを提案する複合施設です。



オガールタウン 日詰二十一区

環境に配慮し、田園と都市の良さを兼ね備えた暮らしやすいまち「オガールタウン 日詰二十一区」です。地元工務店が地元の木で建てる木造コハウスが建ち並び良好なまち並みを形成し、オガールタウン景観の下、暮らす人たちみんなで良好な景観と住環境を育んでいきます。



オガールベース

平成26年7月オープン

日本初のバレーボール専用体育館、ビジネスホテルの他、コンビニエンスストアや飲食店、事務所などが入居する民間複合施設。体育館を活用した合宿やスポーツアカデミー事業などを展開するとともに、近隣の岩手県フットボールセンターや紫波町営自転車競技場とも連携し、スポーツを通じた教育環境と人材育成の充実を目指します。



オガールプラザ

平成24年6月オープン

紫波町情報交流館（図書館と交流館）と子育て応援センターの公共施設と、産直やカフェ、居酒屋、歯科、眼科、学習塾などの民間施設で構成される官民複合施設です。「知りたい、学びたい、遊びたいを支援する」図書館に代表されるように、オガールプラザは、多様な活動やニーズに応える拠点として、子供から高齢者まで幅広い年代が訪れています。



岩手県フットボールセンター

平成23年4月オープン

日本サッカー協会公認のグラウンドである岩手県フットボールセンターは、各種公式試合や幅広い世代のトレーニングセンターとしての機能を持つ一方、様々なイベントを開催することで、サッカーを通じた交流人口の増加やまちの経済発展に寄与します。さらに、「サッカーによる人材育成」を積極的に行っています。

事業主体である岩手県サッカー協会は、オープンと同時に本部を盛岡市から紫波町に移転し運営しています。



4つの事業棟には、アーケードを配置して統一感を持たせます。アーケードに沿ってテナントが建ち並び、人が行き交う賑わいを創出します。



開発テーマ

1. 農村(田園)と都市(街)が共生するまち

紫波の農作物や農村の良さに触れることができ、
そして都市機能が集積された、
使いやすく人が集うまちを目指しています。

2. 若者、高齢者、すべての人が希望を持ち、 安心して暮らせるまち

住環境が充実し、そして多様な雇用が生まれ、
若者が学び・働き・挑戦できる環境が充実したまちを
目指しています。

3. 人にも地球にも「やさしい」まち

環境への配慮を実践し、そしてすべての人にやさしい街を目指しています。

4. 優れたデザインの採用

目に見えるデザインはもとより、ライフスタイルのデザインを大切にします。



開発理念

都市と農村の暮らしを「^{たの}愉しみ」、環境や景観に配慮したまちづくりを
表現する場とします。

オガールプロジェクトの系譜

平成19年4月	公民連携の推進に関する学校法人東洋大学と紫波町との協定書締結
8月	紫波町PPP可能性調査報告書(東洋大学大学院公民連携専攻作成)
平成21年2月	紫波町公民連携基本計画策定
3月	都市再生整備事業(紫波中央駅前地区)策定
6月	オガール紫波株式会社設立
6月	紫波町オガール・デザイン会議設置
平成22年3月	オガール・デザインガイドライン策定
平成23年4月	岩手県フットボールセンター 開場
平成24年6月	官民複合施設オガールプラザ オープン
8月	紫波町図書館 開館(オガールプラザ内)
平成25年10月	オガールタウン日詰二十一区 宅地分譲開始
平成26年6月	民設民営エネルギーステーション 完成
7月	民間複合施設オガールベース 完成
平成27年5月	紫波町役場新庁舎 開庁
平成28年12月	官民複合施設オガールセンター 完成
平成29年4月	民設民営オガール保育園 開園

令和2年3月改訂発行

紫波町企画総務部企画課地域開発室
〒028-3392
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3-1
TEL: 019-672-2111 FAX: 019-672-2311
E-mail: shiwa-ppp@town.shiwa.iwate.jp
HP: <http://www.town.shiwa.iwate.jp>

オガール企画合同会社
〒028-3318
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3-12
TEL: 019-601-5222 FAX: 019-601-5222
E-mail: ogal.planning@gmail.com
HP: <https://ogal.info>

